

設計 安藤忠雄さん 子ども病院 ネパール



毎日新聞読者からの善意の寄金をもとにネパール・ブトワル市につくる子ども病院の基本設計を、大阪市在住の世界的な建築家、安藤忠雄さん(55)が写真がボランティアで引き受けることになり、10日、その模型が完成した。阪神大震災の際にアジア・アフリカの途上国から寄せられた救援への「お返し」を目的に、NGO(非政府組織)のAMDA(アジア医師連絡協議会、本部・岡山市)と連携した「顔の見える援助」に安藤さんが共感し、協力を申し出た。今年4月にも着工の見通しで、来年春に完成の予定。

ネパール国内は小児専門病院が一つしかなく、5歳未満児の死亡率が日本の約20倍。建設予定地はネパール南西部のブトワル市中心部から約1・5キロの国有地で約6・7畝。ブトワル市が基盤整備を担当、現地に作った建設推進委員会(スルヤ・プラダン市長ら5人)が近く予定地の譲渡をネパール政府から受ける。建設資金は、毎日新聞社会事業団への読者の寄金のほか、松下電器産業労働組合(古賀伸明委員長)▽大阪ガス小さな灯運動(森忠利・代表幹事)▽東京渋谷ライオンズクラブ(笹田公重会長)が協力。AMDA本部とAMDAネパール支部(ラメシユワル・ポカレル医師ら約25人)が病院の建設、運営にあたる。

安藤さんは、日本建築学会賞、芸術院賞、建築界のノーベル賞といわれるプリツカー賞などを受賞。毎日新聞の子ども病院建設キャンペーンを知り、協力を申し出た。

病院は、延べ床面積約1000平方メートルで、外来と救急処置センター、病棟(50床)などを予定。

安藤さんは「私が設計することでネパールの建築に少しでも役に立てれば幸いです」と話している。

【運見 新也】

救援金にご協力を

ネパールの子どもたちに目に見える援助を実施するため、今回のキャンペーンは現地で進められている子ども病院建設計画に協力していただきます。救援金は左記へ郵便振替か現金書留で送金いただくか、直接ご持参ください。

〒100-51 東京都千代田区一ツ橋1の1、毎日新聞東京社会事業団「海外救援金」係(郵便振替・00120-0076498)

